

## M16b SOHO/EITによるコロナルブラスト波

鳥居、内田、Thompson、広瀬

Moreton によって Ha ドップラーシフトドヘリオグラフにより彩層面を高速度 (800-1500km/s) で伝わる波面として発見されたいわゆるモートン波は Uchida(1968,1970) の理論によって磁気コロナ中を伝わるフレアによる爆風波の裾が彩層をスイープして行くものとして説明された。このコロナ内電磁流体衝撃波モデルは電波で観測される II 型バーストの出現場所、運動などの振る舞いも説明する事が分かり (Uchida et al.1974)、II 型バーストをコロナ中を伝わる電磁流体衝撃波によるものとして天体現象に具体的に電磁流体力学を導入した Uchida (1960) の説をサポートした。この現象は 1996 年に Thompson によって SOHO/EIT データで再発見され、その後いくつかのイベントが発見されて来ている。ここでは、新しく 4 例を発見し、それらをフェイント構造エンハンス法などを用いて解析し、これらが、源から直接磁力線でつながっているはずのない広い扇状の領域に 500 - 800 km/s 程度の速度で伝わる事や波の指向性、Ha で見えるダークフィラメントへの影響などを見出した。年会発表ではこれらの解析で分かってきた諸事実について報告する。